



YCS【ゆりコミュニティ・スクール】通信

第1号 令和元年6月28日発行

本校では、昨年度から学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を本格的に導入しました。コミュニティ・スクールでは、学校と地域住民、保護者等が力を合わせて学校の運営に取り組み、共に子どもたちを育てていくことを目的としています。昨年度、本校では「みんな元気プロジェクト」「障害理解教育」「就労」の三つの柱を決め、地域の方たちと熟議などを通して活発な意見交換をし、相互理解を深めてきました。今年度はそこで話し合ったことを実現するために、一層の連携を図っていききたいと思います。

今年度、新しいメンバーを4名お迎えし、第1回学校運営協議会が本校を会場に実施されました。委員の皆様には、本校児童生徒の学習の様子を直接ご覧頂き、その後の会議では今年度の学校運営方針の承認、それについてのご提案や助言等をいただいております。今号では、その様子を簡潔にお知らせいたします。

構成メンバーの紹介

○学校運営協議会委員

- 遠藤千代子 氏 （由利本荘市健康福祉部福祉支援課 課長補佐（兼）障がい支援班長）
- 尾留川 等 氏 （つるまい福祉会 水林新生園施設長）
- 西村 吉隆 氏 （本荘公共職業安定所 所長）
- 高橋ひろみ 氏 （由利本荘地域生活支援センター センター長）
- 佐藤 隆 氏 （由利本荘市教育委員会学校教育課 参事（兼）学校教育課長補佐）
- 大城 孝一 氏 （本荘教育学習課長兼中央公民館長）
- 安倍 武義 氏 （元本荘北中学校長）
- 増田 良 氏 （にかほ市教育委員会 教育研究所指導主事）
- 工藤 啓太 氏 （由利本荘青年会議所 理事長）
- 菅原 真理 氏 （由利本荘市子ども読書活動推進会議 研修部長）
- 佐々木美喜子氏 （鳥海山木のおもちゃ美術館企画運営部）
- 金子 由雄 氏 （浜ノ町町内会長）
- 佐藤 徹 氏 （ゆり支援学校 PTA会長）

○本校職員

- | | | | |
|-------|-------|-----------|-------|
| 校長 | 田口 睦子 | 小学部副主事 | 高橋真理子 |
| 教頭 | 大山 美香 | 中学部副主事 | 太田 清子 |
| 教頭 | 佐々木義範 | 高等部副主事 | 大庭せい子 |
| 小学部主事 | 山中 征子 | CS推進委員会担当 | 熊地 需 |
| 中学部主事 | 菊地 正紀 | 進路指導主事 | 三浦 智己 |
| 高等部主事 | 鈴木 健 | 主任寄宿舎指導員 | 仁平 牧子 |



特別支援教育課からの委嘱状



事務デザイン班の授業参観



活発な意見交換

活動計画

月	日	学校運営協議会	その他の取り組み
5			職員の意識調査実施(年度当初)
6	12	第1回 授業参観 運営方針、役職分担等の決定 年間計画・方針の決定	
8			委員の方との熟議(適宜)
9	4	第2回 学校中間評価 ワーキンググループによる熟議	
10	19		* 20 周年記念式典
11			委員の方との熟議(適宜)
12			職員の意識調査実施(年度末)
2		第3回 協議会の役割・在り方の検討 CSディレクターの活用状況報告 学校年度末評価	第 34 回秋田県教育研究発表会での発表

話し合いの内容

◇会長、副会長の選出

・事務局一任により **会長** 安倍 武義 氏 **副会長** 尾留川 等 氏

◇学校運営説明（田口校長）

- ・今年度本校は 20 周年を迎える。20 周年では「ありがとう 20 年 まきおこせ新風」のスローガンのもと「感謝」と「貢献」を意識していく。できることを行動に移すことは働く力の土台となる。
- ・目指すところは「共生社会の実現」である。地域における障害理解の推進を図っていく。
- ・学校間交流や居住地校交流などで障害者と直接的に関わることで、小・中学校の児童生徒も育つということを前提に、障害理解教育を推進していきたい。
- ・地域交流の中で、一般の方の障害理解を進めるために、昨年度「木のおもちゃ美術館」で作業製品を地域の方と作る活動を行った。自分のもっている知識・技能を教えることで自己肯定感が高まった。
- ・就労に関しては、一人一人に応じて職場に定着するための支援を行ってきた。この 3 年間で就労した卒業生の中で離職者はいない。
- ・障害者理解の推進は学校と地域双方の課題である。昨年の学校運営協議会においては土台作りをして頂いた。今年度は委員の方々に活発な助言や情報発信をお願いしたい。できれば委員にはメール登録をしていただき、スピーディーにやりとりができればと思っている。

◇寄せられたご意見（抜粋）

- ・就職しても事業主との行き違いで離職することがある。受け入れ側の理解が必要である。県条例で由利本荘市はモデル地区となった。障害理解に向けての研修会等必要だが、行政として何ができるか考えていきたい。（遠藤委員）
- ・障害者雇用の法定雇用率を達成していない企業が由利本荘市には 23 社ある。雇用の機会が広がってきている。保護者向けの情報提供の場に雇用を考えている企業に来てもらったらどうか。（西村委員）
- ・昨年度本荘南中学校と交流をしたが、大変良かったと話を聞いている。小学校から交流を重ねているのでスムーズに交流できたのでは。口コミで交流の良さや障害理解の出前授業に関して広げていきたい。（佐藤隆委員）
- ・にかほ市は物理的な距離もあり、就学前は障害のある子どもの保護者の悩みも多い。広報などでゆり支援の行事などを紹介し、良さを地域に広げていきたい。（増田委員）
- ・肢体不自由の子どもたちにもいいおもちゃが木のおもちゃ美術館にはある。アクティビティ、ホスピタリティおもちゃで役に立てればと思う。（佐々木委員）
- ・高等部生の就労は上向きだが、余暇の過ごし方が課題だと保護者間でも話題になっている。保護者として学校と地域、一緒に考えていきたい。（佐藤徹委員）